

# 平成 22 年度事業計画書

学校法人千葉工業大学

## ■ 高等教育を取り巻く環境

国際社会のグローバル化の進展に伴い、国内における様々な構造に変化が起きている。社会を構成する人的資源に対する要求は高度化し、21世紀を生き抜くための国作りにおいて、人材の育成が最も重要な要素として再認識されてきている。その中で、特に高等教育機関への期待はますます高度化・多様化し、社会のニーズに応えるための体制整備が急務となってきた。また、一昨年秋の世界的な金融不安以降、国内の労働環境は大きく変化してきている。新卒採用は大幅に抑制され、派遣・契約社員が増加するなど、労働環境の基盤が揺らいできている。

これらの社会構造の変化を踏まえ、中央教育審議会大学分科会では、「社会や学生からの多様なニーズに対応する大学制度及びその教育」、「グローバル化の進展の中での大学教育」、「人口減少期における我が国の大学の全体像」について議論が進められている。大学の質の保証については、「設置基準」、「設置認可審査」及び「認証評価」の関係を再検証し、大学の情報公開と自主的な質保証活動の重要性を指摘している。また、社会人としての素養を育成するための全学的な教育・支援体制の必要性を認識し、キャリアガイダンス等職業指導を通じた人間力育成を法令上に位置付けるなど、具体的な施策を実施に移し始めている。

## ■ 本学の現状

平成21年度は、前年度に実施した(財)日本高等教育評価機構による大学機関別認証評価を受け、評価結果及び自己点検・評価結果に基づく改善向上方策を実行し、大学のより良い運営に努めた。

教育研究体制については、昨年度開設した社会システム科学部「金融・経営リスク科学科」及び大学院工学研究科「未来ロボティクス専攻(修士課程)」が順調にスタートし、本学の教育研究体制の更なる充実に寄与し始めている。FD活動の更なる向上に向けては、一部の学部で先行実施していた「学部教育シンポジウム」を全学部で実施する体制に改め、全学体制として初めて実施した。また、JABEE(日本技術者教育認定機構)への取り組みは、工学部電気電子情報工学科が受審申請を行い、今年度に認定を受ける予定である。平成19年度よりスタートした「高校から大学への移行プログラム」は「メンター制」に移行し2年を経過し、学生個々への対応を充実させると共に、学生の自主的な創作活動を支援する「CITものづくり」を新たにスタートさせるなど、学生の学習意欲向上に向けた諸策を実施している。また、新たに「惑星探査研究センター」を開設し、最先端研究拠点として研究活動の一層の充実に努めている。

社会貢献では、産官学融合センターを中心に多彩な活動を行っており、各種フォーラムの開催や近隣大学や地元自治体との協同による環境大学の開催など、地域活動を促進している。

本学の一般入試の志願者動向は、新しい教育研究体制の整備、新たな入試制度、積極的な広報展開等によって志願者は大幅に増加した。しかし、この結果に満足することなく、時代に即した教育課程改革を継続的に実施しつつ、修学支援体制の更なる充実やキャリア教育の拡充など、総合的な学生支援体制の整備を今後も進めていく。

## ■ 平成 22 年度事業計画

### 1. 教育研究

本学の教育力の向上を図るために、FDの一環として平成 21 年度から学部教育シンポジウムを通じた「教育業績表彰」制度の運用をはじめており、初年度は 35 件の発表が行われ、優秀な事例 4 件が表彰された。平成 22 年度はこの制度の更なる充実を図り、教育手法に関する情報を共有し、授業や研究室における指導にフィードバックしていくことを目指す。

また、メンター制を中心とした修学支援制度や、学生を主体としたものづくり活動に対して人的・経済的支援を行う「CITものづくり」を実施し、学生に“ものづくり”に対する興味を抱かせ実行力を養い、多様化した学生の対応に努める。

J A B E E（日本技術者教育認定機構）認定コースの設置申請については、電気電子情報工学科が既に審査を受け、平成 22 年 5 月に認定を受ける予定であるが、他の学科においても順次申請準備を進めている。これらの作業を通じて教育の質の向上を図り、出口保証をしっかりと行うとともに、キャリア支援の充実を図る。

同時に、若手教員に対する研究支援強化等により、研究活動の活性化を進めるとともに、産官学融合センター機能の一層の充実を図ることで大学の第三の使命である「社会貢献」を推進し、研究シーズの積極的な広報展開を行う。

[具体的項目]

- (1) 学生生活の満足度向上へ向けた継続的対応
- (2) 学生支援の充実強化（学生相談、課外活動、奨学金等）
- (3) 学生共済会の充実
- (4) 入学前教育の充実
- (5) 教養基礎教育カリキュラムの充実
- (6) リメディアル教育の充実
- (7) 教員と一体化した就職支援の推進  
（企業との交流を広める・保護者向けキャリアフォーラムの実施）
- (8) キャリア支援・キャリア教育の促進  
（キャリア形成支援講座、資格取得講座の開講等）
- (9) インターンシップの促進
- (10) 学生支援推進プログラム「学生の孤立化を解消する就職支援プログラム」（文部科学省補助事業）の実施
- (11) 新入生に対する少人数制による総合的な支援
- (12) 習熟度別教育の充実
- (13) 「CITものづくり」を通じ、学生の工学に対するモチベーションを高めるためのものづくり活動支援
- (14) J A B E E（日本技術者教育認定機構）認定申請に向けた取組
- (15) 教育業績表彰制度等を通じたFD活動の継続
- (16) 自己点検・評価の継続的実施
- (17) 競争的研究資金等公的研究費獲得支援

- (18) 経常費補助金特別補助事業の強化
- (19) 研究シーズの積極的広報展開
- (20) 大学の特色を生かした公開講座の推進
- (21) 教育・研究実績データベースの本格稼働による外部情報発信
- (22) 外国雑誌の講読の見直し及び電子ジャーナル、各種データベースの拡充
- (23) 地域社会との連携・協力の一環としての図書館の開放
- (24) 海外協定大学との連携強化
- (25) 留学生の派遣及び受入れ体制の充実
- (26) 情報教育・ネットワーク環境の充実
- (27) 学生寮の支援活動強化

## 2. 管理運営

充実した教育研究環境の整備は、学生の学習意欲向上に不可欠な要因である。本学では、平成18年度からキャンパス再開発計画をスタートさせ、5ヶ年をかけて環境整備に努めている。平成20年3月に芝園校舎新棟が完成、平成20年9月には津田沼校舎に超高層となる20階建ての新1号棟が完成し供用を開始した。平成22年3月には、新1号棟の完成により取り壊しとなった機械科実験棟の跡地に新学生ホール棟が完成した。

今年度は、新1号棟完成により同じく取り壊しを完了した2・3号館及び西側校舎跡地を建設地として昨年度に工事着工した、新2号棟新築工事について年度内の完成を目指す。

また今年度は、5ヶ年をかけて環境整備に努めてきたキャンパス再開発計画の最終年度にあたる為、次期キャンパス再開発の施設計画の策定に注力する。

[具体的項目]

### I. 施設・設備関係

- (1) 津田沼校地再開発計画の推進
  - ① 新2号棟新築工事完成
  - ② 新2号棟への研究・実験室等移転及び本部機能移転
- (2) キャンパス再開発5ヶ年計画後の施設計画策定
- (3) 芝園校地 6号館（図書館）改修、2号館空調改修工事着工・完成

### II. 組織等

- (1) 継続した学生支援業務，教育研究サポート業務の充実のための事務対応
- (2) 近い将来を見据えた柔軟な事務組織の検討（事務分掌の再検討）
- (3) 創立70周年事業の検討
- (4) 安定的な経営基盤の確立を目指した財務運営
- (5) 継続的なPDCAサイクルの推進
- (6) 事務職員のスキルアップとして過年度実施した組織活性化プログラムの発展的継続

以上